

資料

- ① 構成メンバー
- ② 研究プロジェクト一覧
- ③ 協力研究者一覧
- ④ シンポジウム・セミナー一覧
- ⑤ 寄贈図書一覧
- ⑥ 電子化イベント一覧
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学
ジェンダー研究所規則
- ⑧ 『ジェンダー研究』 編集方針・
投稿規定
- ⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト
プライバシー・ポリシー

【資料】①構成メンバー

【所長】

戸谷陽子(基幹研究院人文科学系・文教育学部教授)

《任期》

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

【専任教員】

申琪榮(ジェンダー研究所教授)

2015(H27)年4月1日～

大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)

2018(H30)年9月1日～

【学内研究員】

棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

斎藤悦子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

石丸径一郎(基幹研究院人間科学系・生活科学部准教授)

2021(R3)年4月1日～2023(R5)年3月31日

【特任講師】

嶽本新奈

2022(R4)年5月1日～2023(R5)年3月31日

【特任リサーチフェロー】

本山央子

2022(R4)年8月1日～2023(R5)年3月31日

【特任アソシエイトフェロー】

黒岩漠

2022(R4)年5月1日～2023(R5)年3月31日

【アカデミック・アシスタント】

稲垣明子

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

梅田由紀子

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

関根里奈子

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

滝美香

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

和田容子

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

【客員研究員】

足立眞理子(お茶の水女子大学名誉教授)

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

【研究協力員】

板井広明(専修大学経済学部准教授)

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

佐野潤子(慶應義塾大学ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター特任講師)

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

平野恵子(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

仙波由加里

2022(R4)年4月1日～2023(R5)年3月31日

ルセッタ・カム(香港浸會大学文學院准教授)

2022(R4)年10月11日～2023(R5)年1月7日



所長 戸谷 陽子

基幹研究院人文科学系・教授

文教育学部言語文化学科英語圏言語文化コース

博士前期課程比較社会文化学専攻英語圏・仏語圏文化学コース

博士後期課程比較社会文化学専攻言語文化論領域

専門分野: 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、文化政策、比較演劇論

所属学会等

日本英文学会(編集委員)

日本アメリカ文学会(東京支部評議員・編集委員)

日本アメリカ演劇学会(評議員)

日本アメリカ学会

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構(学位審査会専門委員)

主な業績

《書評》

大島一芳著『ヘンリー・ジェイムズとその時代—アイルランド、アメリカ、そしてイギリスへ』、『アメリカ文学研究』第59号(日文号)所収 p.79

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:20K00385)「米国舞台・表象空間における日本人ストックキャラクターの系譜と展開」、2020年度～2023年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:16K02483)「米国舞台芸術の理論と実践におけるサブジャンルの成立と発展—人形・仮面・演じる物体」、2016年度～2022年度、研究代表者



専任教員(教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻(専攻長) ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻
生活科学部生活社会科学講座

専門分野:ジェンダーと政治、比較政治学(東アジア)、フェミニズム理論、#MeToo、クオータ制、男女共同参画政策

所属学会等 International Political Science Association, American Political Science Association
European Conference on Gender and Politics, International Association for Feminist Economics
日本政治学会、日本比較政治学会、日本社会政策学会、日本フェミニスト経済学会、
「女性・戦争・人権」学会(運営委員)
ソウル大学日本研究所『日本批評』、西江大学社会科学研究所『社会科学研究』、
釜山大学女性学研究所『女性学研究』、イギリス政治学会『Politics』編集委員
『ジェンダー研究』編集長
韓国女性政策研究院 Visiting Scholar (2022 年 9 月)

主な業績

《論文、書評等》

- 申琪榮、2023. 「半分の成功——韓国のクオータ制からの示唆」、『学術の動向』28(2)、48-52.
- Shin, Ki-young and Soo Hyun Kwon. 2023. “It’s Money that Matters in the End: The Impact of Gender-targeted Public Funding on Political Parties and Women Candidates in South Korea.” *International Political Science Review* 44 (1): 91-106 (doi.org/10.1177/01925121221078232 First published May 10, 2022).
- 申琪榮・濱田真里、2023. 「子育て中の女性候補者が直面する選挙運動の壁」、『都市問題』Vol. 114 January. 12-21.
- 申琪榮、2022. 「社会的再生産理論(SRT)を手かがりに読み解くコロナ禍」、年報政治学 2022-I 号: 35-52.
- 申きよん、2022. 「オジサン政治を終わらせるために～パリテ実現に向けて、今、私たちにできること～」、働く女性の情報誌『いこ☆る』Vol. 66(10月号). 2-11.
- 申きよん、2022. 「女性候補者の「育ち」を支援する試み」、月刊『地方議会人』12月号(53(7)). 12-13.
- 申きよん、2022. 「前進するフェミニズム:韓国と日本におけるソーシャルメディアとアクティヴィズム」、『シモーヌ』Vol. 6. 63-67.
- 申琪榮、2022. 書評「私は男でフェミニストです」、『MOVING』Vol. 97: 10

《共著書》

Substantive Representation of Women in Asian Parliaments. 2022. “Ch. 3 Substantive Representation of Women in Korean Legislature,” 50-69. Routledge.

《Online 記事寄稿》

「제 20 회 통일지방선거를 맞아」 『IJS Japan Review』 제 7 호. (2023.02.08) 서울대학교 일본연구소
https://ijs.snu.ac.kr/social_contributions/IJS_Japan_Review?mode=view&reviewidx=10

『PRESIDENTOnline』 2022 年 7 月 28 日 「韓国に大差をつけられ 116 位...日本のジェンダーギャップが「12 年前のレベルに」後退した」ワケ:「外国が頑張っているから遅れて見えるだけ」はウソだった」
<https://president.jp/articles/-/59839>

『PRESIDENT WOMEN Online』2022 年 7 月 28 日「韓国に大差をつけられ 116 位...日本のジェンダーギャップが「12 年前のレベルに"後退"した」ワケ:「外国が頑張っているから遅れて見えるだけ」はウソだった」
<https://president.jp/articles/-/59983>

《学会報告》

- 申琪榮、「若手女性政治リーダー養成の試みーパリティ・アカデミーの5年間の実績から見えてきたもの」日本地方政治学会・日本地域政治学会 2022 年 12 月 4 日(長野県立大学)
- 申琪榮、日本フェミニスト経済学会 共通論題報告、「政治権力はどのように再生産されるのか——政治資本としてのイエ、2022 年7月 9 日(早稲田大学)

《海外招待講演等》

- ・ 岩手大学 文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ(女性リーダー育成型)事業「I.W.A.T.E. 1in 3 女性リーダー職倍増プラン」キックオフシンポジウム基調講演「グローバルな視座から見た日本のダイバーシティ推進と女性リーダー育成の課題」、2023 年 3 月 13 日
- ・ コンラードアデナウアー財団 Asian Women Parliamentary Caucus Meeting, Substantive Representation of Women by Parliamentarians in Asia—A Comparative Study 出版記念ワークショップ、報告及びパネルモデレーター
- ・ 韓国慰安婦問題研究所 2022 年専門家フォーラム「日本軍慰安婦問題の問題化——共存への模索」第2部ラウンドテーブル「日本軍慰安婦「問題」は民主主義」パネリスト、2022 年 8 月 29 日
- ・ アメリカ政治学会主催 Asia and Pacific Political Science Research and Publication Conference メンター及びコメンテーター、バンコク、2022 年 7 月 21～24 日
- ・ 韓国ジェンダー法学会・ジェンダー政治研究所主催、第 29 回ジェンダー法ブランチ「ヨイド MeToo——政治領域の構造的特徴とヒエラルキを超える」パネリスト、2022 年 5 月 27 日

《他大学、研究会講演》

- ・ 上智大学 プロフェッショナル・スタディーズ 講座、2022 年 11 月 28 日
- ・ 慶應大学 国際ワークショップ「Gender and Political Representation in Asia and Beyond」、コメンテーター、2022 年 25～26 日
- ・ 池田緑 基盤研究 B『経験的概念としての「ポジショナリティ」の発展的研究』研究会 招聘報告 2022 年 6 月 11 日
- ・ 立教大学 Modern Japanese History ゲスト講義(英語)「Women in Japanese Politics: A Comparative Perspective」、2022 年 6 月 10 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12604)「ジェンダークォータの政治学—制度化と抵抗」、2019～2022 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:18H00817)「女性の政治参画の障壁:国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査」、2018～2022 年度(研究代表者:三浦まり・上智大学)、研究分担者

《企画運営国際シンポジウム》

- ・ 国際シンポジウム『リプロダクティブ・ジャスティス——妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く』、2022 年 12 月 20 日(本報告書 27 頁)
- ・ 国際シンポジウム『東アジアにおけるジェンダーと政治代表: Gender and Political Representation in East Asia』、上智大学 2023 年 1 月 13 日(本報告書 47 頁)



専任教員(准教授) 大橋 史恵

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース
文教育学部グローバル文化学環

専門分野: ジェンダー研究、国際社会学、中国地域研究

所属学会等 International Association for Feminist Economics

日本社会学会
関東社会学会
日本フェミニスト経済学会(幹事会役員、『経済社会とジェンダー』編集長)
ジェンダー史学会
現代中国学会
中国女性史研究会
経済理論学会分野別ジェンダー分科会

主な業績

《著書・論文》

2022 “Social reproduction process in colonial Hong Kong: The shifting gender relations of the intra-east Asian economy” The Japanese Political Economy, 2022, vol. 48, issue 2-4, 129-148.

2022 「『個人的なことはグローバルなこと』——国境を越える分業の再編とジェンダー」、千田有紀・菊池英明編著『グローバリゼーションと変わりゆく社会』、北樹出版、2022 年, pp.94-108。

《学会報告》

2022 「香港社会の家事労働者と使用者——住み込みの「外籍傭工」と通いの「家務助理」の差異をめぐって——」、国際ジェンダー学会大会シンポジウム「家事・ケアサービス、使う側の責任を考える 市場経済化に抗する運動の可能性」、2022 年 9 月 2 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:20H01468)「新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー」、2020～2022 年度(研究代表者:堀芳枝・早稲田大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:19H01578)「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」、2019 年度～2022 年度(研究代表者:定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12603)「香港における移住女性の再生産労働力配置——「グローバル・シティ」のジェンダー分析」、2019 年度～2022 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 B)(課題番号:21KK0033)「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」、2021～2024 年度、研究分担者



特任講師 嶽本 新奈

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

専門分野: 歴史学、歴史社会学、ジェンダー研究

所属学会等 ジェンダー史学会
総合女性史学会
歴史科学協議会
女性・戦争・人権学会
社会学研究会
日本フェミニスト経済学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析」(19 頁参照)／『『からゆきさん』にみる移動・性・権力の諸相」(22 頁参照)
- ・ IGS セミナー「日本(と世界)における性的マイノリティの政治」企画・コーディネーター・司会(35 頁参照)／『『棄民』を記録する: 今村昌平・ドキュメンタリー映画『からゆきさん』(1973)再考」企画・コーディネーター・司会(39 頁参照)／『家電と暮らしのポリティクス』司会(41 頁参照)
- ・ IGS 国際シンポジウム「リプロダクティブ・ジャスティス: 妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く」運営担当(27 頁参照)
- ・ IGS-AIT 交流事業:「AIT ワークショップ報告会」企画・コーディネーター・司会(63 頁参照)／IGS-AIT 交流事業:『2022 年度 AIT ワークショップ実施報告書』編集担当(63 頁参照)
- ・ 担当セミナーのウェブサイト用報告書(各日本語・英語)の翻訳・監修
- ・ 『ジェンダー研究』編集スタッフ(68 頁参照)。主に特集、一般投稿論文担当。ほか『ジェンダー研究』編集刊行業務全般の統括。
- ・ IGS 研究協力員研究報告会、企画・コーディネーター・司会(45 頁参照)ならびにウェブサイト用報告原稿作成。

主な業績

《著書・論文》

- 2022 「シベリア地域の『からゆきさん』と現地の人的繋がり——尼港事件「殉難碑」再考」『研究叢書』釜慶大学人文韓国プラス(HK+)事業団(招待有)
- 2022 「『からゆきさん』再読——『生まない女』に着目して」『現代思想 臨時増刊号 総特集 森崎和江』青土社, 50(13): 332-341.(招待有)
- 2022 「優生思想と『純潔／純血』イデオロギー——海外日本人娼婦をめぐる廃娼運動の言説」『シモーヌ 生と性 共存するフェミニズム』現代書館, 7: 50-57.(招待有)

《学会報告・講演》

- 2022 国内研究会:「『恐るべきエネルギー公害 石炭火電の環境問題 天草環境会議報告集』から読み解く住民運動の葛藤と職業的研究者の距離」、反公害／環境運動研究会、第 1 回例会、2022 年 5 月 14 日(オンライン)
- 2022 国内研究会:「森崎和江にとっての『エロス』」、森崎和江研究会、第 5 回・「森崎和江と『闘いとエロス』を読み継ぐ」シンポジウム、2022 年 7 月 30 日(大阪大学)
- 2022 国際研究会講演:「北東アジア地域の『からゆきさん』とその交流」、東亜大学ジェンダー・アフェクト研究所講演、2022 年 11 月 17 日(オンライン)
- 2022 国内学会:「ある『からゆきさん』の語りからみる女性の経験」、ジェンダー史学会、第 19 回ジェンダー史学会年次大会「グローバル・ヒストリーとジェンダー」大会シンポジウム、2022 年 12 月 11 日(立教大学)

《他大学講演》

- 2022 明治学院大学「現代平和研究 2」ゲスト講義 10 月 18 日
- 2023 福岡女子大学「国際社会とジェンダー」ゲスト講義 1 月 6 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費若手研究 B(課題番号:17K13298)「『からゆきさん』にみる移動・性・権力の諸相」、2017 年～2022 年度、研究代表者



特任リサーチフェロー 本山 央子

専門分野: ジェンダー研究、フェミニスト国際関係・国際政治経済学

所属学会等 日本平和学会
日本政治学会
国際政治学会
国際ジェンダー学会
日本フェミニスト経済学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー」(19 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』26 号特集国際シンポジウム「リプロダクティブ・ジャスティス: 妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く」開催コーディネーション・司会 (27 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』25・26 号編集 (68 頁参照)
- ・ 海外からの問合対応

主な業績

《著書・論文》

- 2022 “Has Japanese Foreign Policy Become Feminist Too? An Analysis of the ‘Women Shine’ Foreign Policy of the 2nd Abe Administration”, Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, Vol.4: 1-17. Ritsumeikan University (査読有)
- 2022 「社会的再生産とジェンダー」『ジェンダー史学』18 号、pp.69-73、
- 2022 ジェンダー史学会「有償家事労働の位相から「家政」を考える」『現代思想』青土社, 50(2): 79-88. (招待有)

《他大学講演》

- 2022 明治学院大学国際平和研究所赤十字講座 講師 12 月 9 日

●学内研究員



学内研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程 比較社会文化学専攻

人間文化創成科学研究科 博士前期課程 ジェンダー社会科学専攻

専門分野: 文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、
セクシュアリティ研究

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー



学内研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程 人間発達科学専攻

人間文化創成科学研究科 博士前期課程 人間発達科学専攻

専門分野: 子ども社会学、教育学

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー

国際共同プロジェクト INTPART



学内研究員 斎藤 悦子

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部人間生活学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程 ジェンダー学際研究専攻

人間文化創成科学研究科 博士前期課程 ジェンダー社会科学専攻

専門分野: 生活経済学、生活経営学、企業文化論

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー



学内研究員 石丸 径一郎

基幹研究院人間科学系・准教授

生活科学部心理学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学領域

人間文化創成科学研究科 博士前期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学コース

専門分野: ジェンダー心理学、認知行動療法

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー

『ジェンダー研究』編集委員

●客員研究員



客員研究員 足立 真理子

(本学名誉教授)

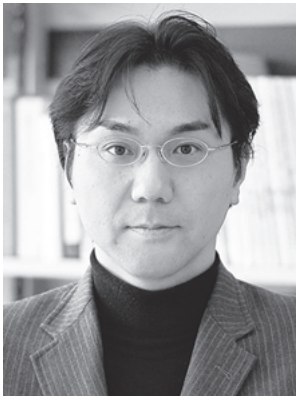
委嘱期間:2022年4月1日～2023年3月31日

研究プロジェクトタイトル

新興アジアにおけるIT-BPOの国際分業の成立とジェンダー(科学研究費基盤研究B 課題番号:20H01468)

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々

●研究協力員



研究協力員 板井 広明

(専修大学経済学部准教授)

委嘱期間:2022年4月1日～2023年3月31日

研究プロジェクトタイトル

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々



研究協力員 平野 恵子

(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 准教授)

委嘱期間:2022年4月1日～2023年3月31日

研究プロジェクトタイトル

再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯(科学研究費基盤研究B 課題番号:19H01578)



研究協力員 佐野 潤子

(慶応義塾大学ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター特任講師)

委嘱期間:2022年4月1日～2023年3月31日

研究プロジェクトタイトル

ノルウェーリサーチカウンスル INTPART 「ジェンダー平等／ダイバーシティ:ノルウェー・日本共同研究」

●研究協力員



研究協力員 仙波 由加里

(一般社団法人ドナーリンク・ジャパン)

委嘱期間:2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

研究プロジェクトタイトル

ノルウェーリサーチカウンスル INTPART 「ジェンダー平等／ダイバーシティ:ノルウェー・日本共同研究」



研究協力員 ルセッタ・カム

(香港浸會大学文學院准教授)

委嘱期間:2022 年 10 月 11 日～2023 年 1 月 7 日

研究プロジェクトタイトル

Queer mobility and migration; queer popular culture in East Asia

●特任アソシエイトフェロー



特任アソシエイトフェロー 黒岩 漠

主担当業務:ジェンダー研究所事務局統括

- ・ ジェンダー研究所全体予算管理
- ・ 『ジェンダー研究』編集員
- ・ 国際シンポジウム等運営
- ・ 各種報告書・データ作成 ほか



アカデミック・アシスタント 稲垣 明子

主担当業務:シンポジウム等運営関連

- ・ AIT ワークショップ事務
- ・ 研究所事業事務(大学本部各種調査対応含む)
- ・ 会計事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

主担当業務:文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理関連

- ・ IGS 史料電子化プロジェクト電子化作業管理
- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ 会計事務
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 関根 里奈子

主担当業務:広報・情報機器管理

- ・ ウェブサイト・SNS・メーリングリスト等による情報発信・広報
- ・ シンポジウム・セミナー・研究会ポスター作成
- ・ オンラインイベント開催時の Zoom Webinar ホスト担当
- ・ 情報機器・ネットワーク管理 IGS ウェブサイト運営技術担当、情報更新作業 ほか



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主担当業務:会計事務関連

- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 和田 容子

主担当業務:成果発信関連

- ・ 年次事業報告書編集
- ・ 『ジェンダー研究』編集員
- ・ 成果発信日本語原稿校閲
- ・ 葉・リーフレット企画制作
- ・ 会計事務
- ・ 研究所事業事務補佐 ほか

【資料】② 2022 年度研究プロジェクト一覧

1) IGS 研究プロジェクト

プロジェクト名	担当
「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究	申
「東アジアの越境的女性運動」研究	大橋
資本と身体ジェンダー分析	大橋・足立・板井
性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析	嶽本
グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー	本山

2) 外部資金による研究プロジェクト

プロジェクト名称	期間(年度)	担当
科学研究費基盤研究 B(課題番号:18H00817) 女性の政治参画の障壁:国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査	2018～2022	申 (分担者)
科学研究費基盤研究 B(課題番号:20H01468) 新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー	2020～2022	大橋 足立 (分担者)
科学研究費基盤研究 B(課題番号:19H01578) 再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯	2019～2022	大橋 平野 (分担者)
科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12604) ジェンダークォータの政治学:制度化と抵抗	2019～2022	申
科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12603) 香港における移住女性の再生産労働力配置:「グローバル・シティ」のジェンダー分析	2019～2023	大橋
科学研究費若手研究 B(課題番号:17K13298) 「からゆきさん」にみる移動・性・権力の諸相	2017～2022	嶽本
科研費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 B) (課題番号:21KK0033) 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー	2021～2024	大橋 (分担者)

3) 海外の助成金によるプロジェクト

①ノルウェーリサーチカウンシル INTPART(戸谷・小玉・仙波・佐野)2019～2022 年度

②ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku の UTFORSK(戸谷)2021 年 8 月～2025 年 7 月

【資料】③ 協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley) ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
ジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	23 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁
	(連) INTPART プロジェクト	56 頁
マーシー・ディニウス (Marcy J. Dinius) デポール大学・米	(セ) 19 世紀米国女性のインターセクショナルなアイデンティティとメディア理論: ソジャーナ・トゥルース女性会議講演『わたしは女ではないのか?』(1851)を例に	33 頁
ジーン・エンシーナス・フランコ (Jean Encinas-Franco) フィリピン大学・フィリピン	(セ) The Marcos Return : What Does it Mean for the Philippines?	30 頁
ジャン・ロバート・ゴー (Jan Robert Go) フィリピン大学・フィリピン	(セ) The Marcos Return : What Does it Mean for the Philippines?	30 頁
リサ・C・イケモト (Lisa C. Ikemoto) カリフォルニア大学・米	(シ) リプロダクティブ・ジャスティス: 妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く	27 頁
ルセッタ・Y・L・カム (Lucetta Y. L. Kam) 香港浸会大学・中国	2022 年度 IGS 研究協力員	93 頁
	(セ) クィアな出路か 新たなクィア／ホモノーマティヴィティか: 中国大陸と香港のクィア女性たちのトランスナショナルな移動可能性 (モビリティ)	37 頁
グロ・コースニス・クリステンセン (Guro Korsenes Kristensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	23 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁
	(連) INTPART プロジェクト	56 頁
目下部京子 (Kyoko Kusakabe) アジア工科大学院大学・タイ	(連) AIT ワークショップ	62 頁
エラー・スヤフパトリ・プリハティニー (Ella Syafputri Prihatini) ビナ・ヌサンタラ大学・インドネシア	(セ) The Marcos Return : What Does it Mean for the Philippines?	30 頁
ヘレン・ピーターソン (Helen Peterson) エレブルー大学・スウェーデン	(シ) 『ガラスの崖』をよじ登る: 『ガラスの天井』の先にあるもうひとつの见えない障壁	48 頁
プリシラ・リングローズ (Priscilla Ringrose) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	23 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁
	(連) INTPART プロジェクト	56 頁
ミッシェル・ライアン (Michelle Ryan) オーストラリア国立大学	(シ) 『ガラスの崖』をよじ登る: 『ガラスの天井』の先にあるもうひとつの见えない障壁	48 頁
カレン・アン・シャイア (Karen Ann Shire) デュースブルグ・エッセン大学・独	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
シリ・エイスレボ・ソレンセン (Siri Øyslebø Sørensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	23 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁
	(連) INTPART プロジェクト	56 頁
【国内】		
青山薫 (Kaoru Aoyama) 神戸大学	(セ) 日本(と世界)における性的マイノリティの政治	35 頁
岩本美砂子 (Misako Iwamoto) 元三重大学	(シ) リプロダクティブ・ジャスティス: 妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く	27 頁
飯野由里子 (Yuriko Iino) 東京大学	(シ) リプロダクティブ・ジャスティス: 妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く	27 頁
岩島史 (Fumi Iwashima) 京都大学	(セ) 家電と暮らしのポリティクス	41 頁
片岡佑介 (Yusuke Kataoka) 一橋大学／立教大学ほか	(セ) 「棄民」を記録する: 今村昌平・ドキュメンタリー映画『からゆきさん』(1973) 再考	39 頁
金井 郁 (Kaoru Kanai) 埼玉大学	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
北原恵 (Megumi Kitahara) 大阪大学	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
小久保みどり (Midori Kokubo) 立命館大学	(シ) 『ガラスの崖』をよじ登る: 『ガラスの天井』の先にあるもうひとつの见えない障壁	48 頁
高谷幸 (Sachi Takaya) 東京大学	(シ) リプロダクティブ・ジャスティス: 妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く	27 頁
武内佳代 (Kayo Takeuchi) 日本大学	(セ) クィアする現代日本文学: ケア・動物・語りとジェンダー	43 頁
三浦まり (Mari Miura) 上智大学	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
村瀬敬子 (Keiko Murase) 佛教大学	(セ) 家電と暮らしのポリティクス	41 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【学内】		
石井クンツ昌子 (Masako Ishii-Kuntz) 理事・副学長・グローバル女性リ ーダー育成研究機構	(シ)『ガラスの崖』をよじ登る:『ガラスの天井』の先にあるもうひとつ の见えない障壁	48 頁
	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	23 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁
	(連) INTPART プロジェクト	56 頁
小林誠 (Makoto Kobayashi) 基幹研究院人間科学系・グロー バルリーダーシップ研究所	(シ)『ガラスの崖』をよじ登る:『ガラスの天井』の先にあるもうひとつ の见えない障壁	48 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁
	(連) INTPART プロジェクト	56 頁
天野知香 (Chika Amano) 基幹研究院人文科学系	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
水野勲 (Isao Mizuno) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
森義仁 (Yoshihito Mori) 基幹研究院自然・応用科学系	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
倉光ミナ子 (Minako Kuramitsu) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
石丸徑一郎 (Keiichiro Ishimaru) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
松田デレク (Derek Matsuda) 国際教育センター／群馬大学	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	23 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁
	(連) INTPART プロジェクト	56 頁
脇田彩 (Aya Wakita) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	68 頁
宝月理恵 (Rie Hogetsu) グローバルリーダーシップ研究所	(シ)リプロダクティブ・ジャスティス:妊娠・中絶・再生産をめぐる社 会正義を切り開く	27 頁
岡村利恵 (Rie Okamura) グローバルリーダーシップ研究所	(シ)『ガラスの崖』をよじ登る:『ガラスの天井』の先にあるもうひとつ の见えない障壁	48 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	23 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

【資料】④ シンポジウム・セミナー一覧

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催国際シンポジウム		
12/20	国際シンポジウム リプロダクティブ・ジャスティス:妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く 【総合司会・趣旨説明】 申瑛榮 (IGS 教授) 【モデレーター】 本山央子 (IGS 特任リサーチフェロー) 【パネリスト】 イケモト・リサ・C (カリフォルニア大学教授) 岩本美砂子 (元三重大大学教授)) 【コメンテーター】 高谷幸 (東京大学准教授) 飯野由里子 (東京大学大学院特任准教授) 大橋由香子 (「SOSHIREN 女(わたし)のからだから」メンバー) 宝月理恵 (お茶の水女子大学特任講師) 【主催】 ジェンダー研究所 【共催】 グローバルリーダーシップ研究所 (IGL) 【言語】 日英 (同時通訳有) 【参加者数】 308 名	27 頁
IGS 主催 IGS セミナー		
6/20	The Marcos Return: What Does it Mean for the Philippines? 【講演】 Jean Encinas-Franco (フィリピン大学教授) 【ディスカッサント】 Jan Robert Go (フィリピン大学准教授) 【モデレーター】 Ki-young Shin (IGS 教授) Ella Syafputri Prihatini (ビナ・ヌサンタラ大学講師) 【主催】 ジェンダー研究所 【言語】 英語 【参加者数】 16 名	30 頁
7/28	フェミニズム出版と運動: 共感と啓蒙をどう繋げるのか 【司会】 小嶋里菜 (お茶の水女子大学大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻) 花岡奈央 (お茶の水女子大学大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻)) 【ゲスト】 山田亜紀子 (雑誌『シモーヌ』編集者) 【主催】 ジェンダー研究所、「フェミニズム理論の争点」ゼミ 【言語】 日本語 【参加者数】 21 名	31 頁
7/29	19 世紀米国女性のインターセクショナルなアイデンティティとメディア理論: ソジャーナ・トゥ ルース女性会議講演『わたしは女ではないのか?』(1851)を例に 【司会】 戸谷陽子 (IGS 所長) 【講演】 マーシー・ディニウス (デポール大学准教授/フルブライト招聘教員) 【主催】 ジェンダー研究所 【言語】 日英 (同時通訳有) 【参加者数】 52 名	33 頁
11/9	日本(と世界)における性的マイノリティの政治 【司会】 嶽本新奈 (IGS 特任講師) 【講師】 青山薫 (神戸大学教授) 【主催】 ジェンダー研究所 【言語】 英語 【参加者数】 18 名	35 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
12/9	クィアな出路か 新たなクィア／ホモノーマティヴィティか: 中国大陸と香港のクィア女性たちのトランスナショナルな移動可能性(モビリティ) A Queer Exit or a New Queer/Homo-normativity?: Transnational Mobility of Queer Chinese Women from China and Hong Kong 【司会】大橋史恵(IGS 准教授) 【報告】ルセッタ・カム(香港浸會大学文學院准教授／2022 年度 IGS 研究協力員) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語 【参加者数】25 名	37 頁
2/17	「棄民」を記録する: 今村昌平・ドキュメンタリー映画『からゆきさん』(1973) 再考 【司会】大橋史恵(IGS 准教授) 【報告】片岡佑介(一橋大学ほか非常勤講師／立教大学ジェンダーフォーラム教育研究嘱託員) 嶽本新奈(IGS 特任講師) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】63 名	39 頁
3/13	家電と暮らしのポリティクス 【司会】嶽本新奈(IGS 特任講師) 【報告】村瀬敬子(佛教大学社会学部教授) 岩島史(京都大学大学院経済学研究科講師) 【ディスカッサント】大橋史恵(IGS 准教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】99 名	41 頁
3/20	クィアする現代日本文学: ケア・動物・語りとジェンダー 【司会】戸谷陽子(IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 【報告】武内佳代(日本大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】116 名	43 頁
IGS 主催 IGS 研究会		
3/17	IGS 研究協力員研究報告会 【司会】嶽本新奈(IGS 特任講師) 【挨拶・コメント】戸谷陽子(IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 【報告】板井広明(専修大学准教授／IGS 研究協力員) 仙波由加里(ドナーリンク・ジャパン／IGS 研究協力員) 平野恵子(横浜国立大学准教授／IGS 研究協力員) 佐野潤子(慶応義塾大学特任講師／IGS 研究協力員) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日本語 【参加者数】15 名	45 頁

IGS 共催国際シンポジウム

- 1/13 国際シンポジウム[「東アジアにおける政治とジェンダー」研究プロジェクト] 47 頁
東アジアにおけるジェンダーと政治代表
【報告】 Ki-young Shin, Ochanomizu University
Chang-ling Huang, National Taiwan University
Jackie Steele, enjoy Japan K.K.
Wan-ying Yang, National Chengchi University
Soo Hyun Kwon, Korea Women's Political Solidarity
Mari Miura, Sophia University
Kenneth Mori McElwain, University of Tokyo
Tomoki Kaneko, University of Tohoku
【ディスカッサント】 Sara Childs, University of Edinburgh
Gregory Noble, University of Tohoku
【主催】 WONDER Research Network on Women and Diversity in East Asian Representation
【共催】 ジェンダー研究所
【協力】 科研費基盤研究 B(18H00817) 女性の政治参画の障壁: 国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査(代表: 三浦まり、分担者: 申琪榮)
科研費基盤研究 C(19K12604) ジェンダークオータの政治学: 制度化と抵抗(代表: 申琪榮)
【言語】 英語

グローバル女性リーダー育成研究機構主催 国際シンポジウム

- 12/23 国際シンポジウム[ジェンダー研究所・グローバルリーダーシップ研究所共同] 48 頁
『ガラスの崖』をよじ登る:『ガラスの天井』の先にあるもうひとつの見えない障壁
【開会挨拶】 戸谷陽子(お茶の水女子大学教授/IGS 所長)
【登壇者紹介】 小林誠(お茶の水女子大学教授・グローバルリーダーシップ研究所長)
【発表】 ミッシェル・ライアン(オーストラリア国立大学教授)
小久保みどり(立命館大学教授)
ヘレン・ピーターソン(エレブルー大学(スウェーデン) 教授)
【コメント】 岡村利恵(お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)
【閉会の挨拶】 石井クンツ昌子(お茶の水女子大学理事・副学長/グローバル女性リーダー育成研究機構長)
【司会】 大橋史恵(お茶の水女子大学ジェンダー研究所)
【主催】 お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
[ジェンダー研究所・グローバルリーダーシップ研究所共同]
【言語】 日英(同時通訳)
【参加者数】 121 名

IGS 後援

- 7/9 日本フェミニスト経済学会 2022 年度大会 49 頁
共通論題
フェミニスト経済学からみた政治・権力: 家父長的世帯主義批判
【座長】 大橋史恵(お茶の水女子大学)/板井広明(専修大学)
【報告】 藤原千沙(法政大学)/申琪榮(お茶の水女子大学)/
キム・イルジュ(早稲田大学)/清水奈名子(宇都宮大学)
【討論】 足立真理子(お茶の水女子大学)/金井郁(埼玉大学)/
小ヶ谷千穂(フェリス学院大学)/落合絵美(岐阜大学)
【主催】 日本フェミニスト経済学会
【共催】 早稲田大学平和学研究所
【後援】 お茶の水女子大学ジェンダー研究所、早稲田大学ジェンダー研究所

【資料】⑤ 2022 年度新規収蔵図書・資料 (2023 年 3 月現在)

・2022 年度、寄贈により以下の書籍が新規収蔵された。〔寄贈者名『書名』(著者名)〕(敬称略)

愛知淑徳大学 ジェンダー研究所『ジェンダー・ダイバーシティと教育』(愛知淑徳大学 ジェンダー研究所[編])
／人文書院『バナナ・ビーチ・軍事基地 : 国際政治をジェンダーで読み解く』(シンシア・エンロー[著], 望戸愛
果[訳])

・2022 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の書籍が新規収蔵された。〔『書名』(著者名)〕

『Assisted Reproduction Across Borders: Feminist Perspectives on Normalizations, Disruptions and
Transmissions 』(Merete Lie and Nina Lykke[編])／『Au Pairs' Lives in Global Context: Sisters or Servants?』
(Rosie Cox[編])／『Bad Girls of Japan』(Laura Miller, Jan Bardsley[編])／『Bioethics: Ancient Themes in
Contemporary Issues』Mark G. Kuczewski, Ronald Polansky[編]／『Coed Revolution: The Female Student in the
Japanese New Left』Chelsea Szendi Schieder[著]／『Excursions in Identity: Travel and the Intersection of Place,
Gender, and Status in Edo Japan』(Laura Nenzi[著])／『Family Life in Japan and Germany: Challenges for a
Gender-Sensitive Family Policy』(Uta Meier-Gräwe, Miyoko Motozawa, Annette Schad-Seifert[編])／『Feminist
Methodologies For Critical Researchers: Bridging Differences』(Joey Sprague[著])／『Gender Equality and
Welfare Politics in Scandinavia: The Limits of Political Ambition? 』(Kari Melby , Anna-birte Ravn and Christina
Carlsson Wetterberg[編])／『Going Solo: The Extraordinary Rise and Surprising Appeal of Living Alone』(Eric
Klinenberg [著])／『Henrik Ibsen And the Birth of Modernism: Art, Theatre, Philosophy』(Toril Moi [著])／
『Living Alone: Globalization, Identity and Belonging』(Lynn Jamieson, Roona Simpson[著])／『Making It in
Corporate America』(Diane Smullen-Grob)／『Maiko Masquerade: Crafting Geisha Girlhood in Japan』(Jan
Bardsley[著])／『Manners and Mischief: Gender, Power, and Etiquette in Japan』(Jan Bardsley, Laura Miller[編])
／『Multiculturalism without Culture』(Anne Phillips[著])／『Paid Migrant Domestic Labour in a Changing
Europe: Questions of Gender Equality and Citizenship』(Berit Gullikstad , Guro Korsnes Kristensen and Priscilla
Ringrose [編])／『Politiques de coalition / Politics of Coalition: Penser et se mobiliser avec Judith Butle』
(Thinking Collective Action with Judith Butler/Delphine Gardey, Cynthia Kraus(dir./eds.))／『Racing Romance:
Love, Power, and Desire among Asian American/White Couples』(Kumiko Nemoto [著])／『Sayonara: A Novel』
(James A. Michener [著], Steve Berry[序論])／『Substantive Representation of Women in Asian Parliaments』
Devin K. Joshi , Christian Echle [編]／『The Chaos and Cosmos of Kurosawa Tokiko: One Woman's Transit from
Tokugawa to Meiji Japan』(Laura Nenzi[著])／『The Demographic Challenge: A Handbook About Japan』
(Florian Coulmas, Harald Conrad, Annette Schad-seifert, Gabriele Vogt [編])／『Threshold Concepts in Women's
and Gender Studies: Ways of Seeing, Thinking, and Knowing』(Christie Launius[著], Holly Hassel [著])／『Too
Few Women at the Top: The Persistence of Inequality in Japan』(Kumiko Nemoto[著])／『Translation in Modern
Japan』(Indra Levy[編])／『Women and Democracy in Cold War Japan』(Jan Bardsley[著])／『WOMEN AND
POLITICAL INEQUALITY IN JAPAN』(Mikiko Eto)／『Women's Role in Twentieth-Century America』(Martha
May)／『Youth Sexualities: Public Feelings and Contemporary Cultural Politics』 volume one/(Susan Talburt
[編])／『Youth Sexualities: Public Feelings and Contemporary Cultural Politics』volume two (Susan Talburt[編])
／『アナーキー・国家・ユートピア : 国家の正当性とその限界』(ロバート・ノージック[著], 嶋津格[訳])／『アメリ
カの愛国心とアイデンティティ』(金井光太朗)／『いのちと向き合う看護と倫理 : ケーススタディ : 受精から終
末期まで』(エルシー・L. バンドマン, バートラム バンドマン[著])／『失われた賃金を求めて』(イ・ミンギョン[著], 小

山内園子, すんみ[訳] / 『男らしさの創出 : 古代から啓蒙時代まで(男らしさの歴史;1)』(A・コルバン, J-J・クルティース, G・ヴィガレロ[監修]) / 『男らしさの勝利 : 19 世紀(男らしさの歴史;2)』(A・コルバン, J-J・クルティース, G・ヴィガレロ[監修]) / 『男らしさの危機? : 20-21 世紀(男らしさの歴史;3)』(A・コルバン, J-J・クルティース, G・ヴィガレロ[監修]) / 『オンライン国際フォーラム記録集 出自を知ることがなぜ重要なのか (IGS Project Series;26)』(お茶の水女子大学ジェンダー研究所) / 『ガールズ・メディア・スタディーズ』(田中東子[編]) / 『ガラスの天井に挑む女たち』(幸田シャーマン) / 『ガンディー「知足の精神」』(モーハンダース・カラムチャンド・ガンディー[著], 森本達雄[編訳]) / 『ケアの倫理とエンパワメント』(小川公代) / 『コロナ禍とジェンダー (年報政治学;2022-1)』 / 日本政治学会[編] / 『差別はたいてい悪意のない人がする—見えない排除に気づくための 10 章』(キム・ジヘ(尹怡景)[訳]) / 『サラ金の歴史—消費者金融と日本社会』(小島庸平) / 『三色のキャラメル : 不妊と向き合ったからこそわかったこと』(永森咲希) / 『ジェンダーから見た世界史 : 歴史を読み替える』(三成美保, 姫岡とし子, 小浜正子[編]) / 『ジェンダー研究 (ジェンダー研究;25)』(ジェンダー研究所) / 『ジェンダー学の最前線』(R.コンネル[著]) / 『女性参政 70 周年記念 女性と政治資料集』(財団法人 市川房江記念会女性と政治センター) / 『女性参政資料集 1987 年版 全地方議会女性議員の現状』(財団法人 市川房江記念会) / 『女性参政資料集 1999 年版 全地方議会女性議員の現状』(財団法人 市川房江記念会) / 『女性参政資料集 2003 年版 全地方議会女性議員の現状』(財団法人 市川房江記念会) / 『女性参政資料集 2007 年版 全地方議会女性議員の現状』(財団法人 市川房江記念会) / 『女性参政資料集 2011 年版 全地方議会女性議員の現状』(財団法人 市川房江記念会女性と政治センター) / 『女性参政資料集 2015 年版 全地方議会女性議員の現状』(財団法人 市川房江記念会女性と政治センター) / 『女性参政資料集 2019 年版 全地方議会女性議員の現状』(財団法人 市川房江記念会女性と政治センター) / 『西洋思想の日本的展開』(小泉仰[監修], 西洋思想受容研究会[編]) / 『専業主婦でなぜ悪い!?!』(L・バートン, J・ディットマー, C・ラブレス[著], 遠藤公美恵[訳]) / 『戦後沖縄と復興の「異音」—米軍占領下 復興を求めた人々の生存と希望』(謝花直美) / 『先端医療分野における欧米の生命倫理政策に関する原理・法・文献の批判的研究 (生命倫理・生命法研究資料集, VI)』(芝浦工業大学工学部応用倫理学研究室) / 『特別招聘教授プロジェクト特集 アネッテ・シャート=ザイフェルト (IGS Project Series;16)』(お茶の水女子大学ジェンダー研究所) / 『特別招聘教授プロジェクト特集 ラウラ・ネンツィ (IGS Project Series;15)』(お茶の水女子大学ジェンダー研究所) / 『〈体育会系女子〉のポリテクス—身体・ジェンダー・セクシュアリティ』(井谷聡子) / 『挑発する少女小説』(斎藤美奈子) / 『手洗いの疫学とゼンメルワイスの闘い』(玉城英彦) / 『「伝統的ジェンダー観」の神話を超えて』(山田礼子) / 『東南アジアと「LGBT」の政治—性的少数者をめぐって何が争われているのか』(日下渉, 伊賀司, 青山薫, 田村慶子[編]) / 『日本の男性不妊—当事者夫婦の語りから』(竹家一美) / 『妊活ヒプノセラピー : プレママのあなたを支える!』(リンジ・イーストバーン[著], タイタノ中村若葉[訳]) / 『墓をめぐる家族論 : 誰と入るか、誰が守るか』(井上治代) / 『ふたりのママから、きみたちへ』(東小雪+増原裕子) / 『北欧福祉国家は持続可能か』(クラウス・ペーターセン, スタイン・クーンレ, パウリ・ケットネン[編著], 大塚陽子, 上子秋生[監訳]) / 『母性の抑圧と抵抗—ケアの倫理を通して考える戦略的母性主義』(元橋利恵) / 『# MeToo の政治学—コリア・フェミニズムの最前線』(鄭喜鎮編, 権金炫怜[著], 金李イスル[訳]) / 『ロック母』(角田光代)

・2022 年度、購入によりジェンダー研究所から以下の DVD が新規収蔵された。[『DVD』(発行者名)]

『難病と闘って気づいたこと (命と死の授業シリーズ;1)』 / 『日常の行方 (終わりのない生命の物語シリーズ;2)』 / 『いじめ・自殺を防ぐために(命と死の授業シリーズ;3)』 / 『男らしさ／女らしさ—社会を覆うジェンダー・ステレオタイプ—(映像で学ぶジェンダー入門:1)』 / 『多様な「性」(映像で学ぶジェンダー入門:2)』 / 『結婚・家庭にお

けるジェンダー(映像で学ぶジェンダー入門:3)／『労働とジェンダー(映像で学ぶジェンダー入門:4)／『性暴力と性の商品化(映像で学ぶジェンダー入門:5)／『就任後 100 日間 = 100 days(オバマ政権 8 年の軌跡:1)』(BBC)／『オバマケア": 医療保険制度改革 = Obamacare(オバマ政権 8 年の軌跡:2)』(BBC)／『対中東政策 = Don't screw it up(オバマ政権 8 年の軌跡:3)』(BBC)／『歴史は正義へと"弧"を描く = The arc of history(オバマ政権 8 年の軌跡:4)』(BBC)／『21 世紀の子どもたちの未来 : 国連ミレニアム宣言から 15 年後(世界の諸問題と子どもたち:1)』(BBC)／『ガザの紛争下の子どもたち. 丸善出版(世界の諸問題と子どもたち:2)』(BBC)／『ボコ・ハラムに拉致された少女たち. 丸善出版(世界の諸問題と子どもたち:3)』(BBC)／『マララ〜教育を求めて闘う少女〜』(BBC 制作、北村友人[監訳])／『怒りを力に ACT UP の歴史』(ジム・ハバード)／『おとこたち』(岩井秀人[作・演出])／『オレの心は負けてない』(在日の慰安婦裁判を支える会)／『外泊』(キム・ミレ)／『家庭の中の人権』(越坂康史)／『ここにおるんじゃけえ』(下之坊修子[監督],岡崎まゆみ[編集])／『三重苦を乗り越えて』(BBC)／『て』(岩井秀人[作・演出])／『投げられやすい石』(岩井秀人[作・演出])／『ナディアの誓い』(アレキサンドリア・ホンバツハ[監督])／『何を怖れる』(松井久子[監督])／『HAFU』(西倉めぐみ, 高木ララ[監督・撮影])／『夫婦』(岩井秀人[作・演出])／『身近な人権問題』(八頭司享)／『忘れてほしくない : 隠されてきた強制不妊手術』(優生思想を問うネットワーク)

【資料】⑥ 史料電子化プロジェクト：電子化イベント一覧

女性文化資料館(1975-1985)/女性文化研究センター(1986-1995)イベント一覧				
年度	活動区分	開催日	イベントタイトル	登壇者
1977	講演会	1977/9/22	湯浅年子先生講演会	湯浅年子
(S52)	シンポジウム	1978/1/14	シンポジウム	
	研究会	1978/2/8	山川菊栄と女性解放思想(木下 研究会)	
	研究会	1978/3/6	社会学における家族	
	研究会	1978/3/22	山川菊栄研究	
1978	研究会	1978/6/6	女性史研究会 欧米の女性論	
(S53)	研究会	1978/7/27	女性史研究会 欧米の女性論	
1979	研究会	1979/5/24	女性の教育と女性問題	
(S54)	研究会	1979/10/4	アメリカ婦人労働の法的諸問題	
	シンポジウム	1980/1/26	総合科目「婦人問題」に関するシンポジウム	
	研究会	1980/2/12	中山みきの思想と歩み—陽気づくめの世界をめざして 50 年—	吉原敬子
		1980/3/1	杉田和子、小島栄子、岩本のり子 於: 中村屋	
1980	研究会	1980/4/1	平安時代の相統制と女子相統権—『平安遺文』文書を中心として—	服藤早苗
(S55)	研究会	1980/4/23	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅰ〕	村松弘子ほか
	研究会	1980/5/29	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅱ〕	田中和子ほか
	研究会	1980/7/3	インドにおける女性の政治的役割	Chandra Mudaliar
	研究会	1980/10/18	〔コペンハーゲン婦人会議及び婦人差別撤廃条約について〕【婦人問題懇話会 講演会】	船橋邦子ほか
	研究会	1980/10/20	性役割とセクシズム	小林啓子
	研究会	1980/11/5	Feminist Literary Criticism からみた『砂の女』	Chigusa Kimura-Steven
	研究会	1980/12/25	目黒依子『女役割』について	田中和子ほか
	研究会	1981/2/12	アメリカの女性史	金子幸子ほか
	研究会	1981/3/27	フランス社会史の動向と女性史	小島智恵
1981	研究会	1981/5/27	人類学者のみた個人的アメリカ女性史	Frederica de Laguna
(S56)	研究会	1981/5/29	Role's of Women's College	Frederica de Laguna
	研究会	1981/6/12	『性の署名』について(1)	内藤和美ほか
	研究会	1981/7/4	『性の署名』について(2)	平川和子
	研究会	1981/7/12	高群逸枝の婚姻・家族形態研究の意義について	関口裕子
	研究会	1981/9/9	カナダの女性学について	Patricia Morley ほか
	研究会	1981/10/16	家族・親族理論研究動向	田中真砂子
	研究会	1981/11/25	兼業農家女性の就労形態の変容—長野県諏訪地方の場合—	久保桂子
	研究会	1981/12/15	オーストラリアと日本の婦人運動／ニュージーランドの女性の地位について	Romanovsky Ulrike ほか
	研究会	1982/1/27	千葉県における廃娼運動—国防婦人会との関連において—	船橋邦子
	研究会	1982/3/24	近現代日本の社会教育と婦人団体	木下 ユキエ
1982	研究会	1982/4/23	女子大学の存在意義を考える—アメリカ・フランス・インド等の各国を見て—	広中和歌子

(S57)	研究会	1982/5/22	女性学研究会 井上輝子、目黒依子	
	研究会	1982/6/4	近世における女性と家族	林玲子ほか
	研究会	1982/10/22	平安時代の養子制度について—日本家族の特質をテーマに—	William McCullough ほか
	研究会	1982/11/24	バングラディシュの女性について	武藤敦子
	研究会	1982/12/13	Consort, mother, beloved, "Vamp"; the symbolic depiction of womanhood in Indian calendar art	Patricia Uberoi ほか
	研究会	1983/1/24	出産の社会史—家族の近代化に関連して—	落合恵美子
	研究会	1983/2/15	韓国の女性について	鄭金子ほか
	研究会	1983/3/22	『巫女の文化』について—古代女性史の見直しのために—	倉塚肇子ほか
1983	研究会	1983/5/30	ガブリエラ・ミストラルと『女性読本』について	田村さと子
(S58)	研究会	1983/6/30	Japanese-German Marriage in Japan: a tentative approach	Irene Hardach-Pinke
	研究会	1983/7/29	『性の深層』をめぐって—現代西ドイツの女性運動との関連で—	大沢三枝子
	研究会	1983/9/26	『妻と夫の社会史』について	山本郁子ほか
	研究会	1983/11/1	女性の側からジェンダーを考える	若井文恵ほか
	研究会	1983/11/21	Intellectual Differences between Woman and Man "Inherited or Acquired?"	Virginia Mann ほか
	研究会	1983/12/15	機械女工たちの近代	古庄正
	研究会	1984/2/22	『婦女新聞』の出発	石崎昇子ほか
	研究会	1983/3/13	フィリップ・アリエス研究—子ども・教育・女性—	波多野完治ほか
1984	研究会	1984/4/24	日本の離婚調停に関する研究	Taimie Bryant
(S59)	研究会	1984/5/15	『更級日記』作者の宗教的コンプレックス	高木きよ子
	講演会	1984/5/31	お茶の水女子大学百年史刊行記念講演会	林太郎ほか
	研究会	1984/6/20	キリスト教文化と女性	杉田弘子
	研究会	1984/7/6	The Function of Libraries, Women's Centers, and "Women's Studies" in doing Feminist Research	Helen Wheeler ほか
	研究会	1984/10/23	『私生子』概念の発生と消長—明治期を中心とする法制・歴史と実際の扱い—	田中弘子
	研究会	1984/11/20	Woman and Nature	Susan Griffin ほか
	研究会	1984/12/11	中国女性史研究—小野和子『中国女性史』を読んで—	加藤直子
	研究会	1985/2/25	樋口一葉の文学—『十三夜』と『人形の家』の比較を中心に—	フランシスカ・フンチカ
	研究会	1985/3/14	近世関東農村における女性労働者の存在形態—年季・日雇奉公人の分析から—	青木道子
1985	研究会	1985/4/26	ユートピアと性	倉塚平
(S60)	研究会	1985/5/29	西欧近代の結婚観—キルケゴールをめぐって—	野村明代
	研究会	1985/6/12	清代において模範とされている女性について	Susan Mann
	研究会	1985/6/13	食事が子供の身体と心に与えるもの	
	研究会	1985/7/4	韓国女性の政治的、社会的地位	白京男
		1985/10/5	第三世界の女性たちと私たち—ナイロビ報告(日本婦人問題懇話会)	
	研究会	1985/10/28	『源氏物語』にみる婚姻と居住形態と相続—光源氏と紫の上と明石君をめぐる—視角—	木下ユキエ
	研究会	1985/11/15	主婦とテレビ	香取淳子
	シンポジウム	1985/11/27	産むことを考える	加藤シヅエほか
	研究会	1985/12/18	イタリア女性解放思想の歴史と今日的な段階—19 世紀末から現在に至る主要な事項—	Argnani Fausta

	研究会	1986/1/16	スイスにおける女性史研究—論文集『女性』と『イティネラ』にみる女性史家の研究動向—	佐藤るみ子
	研究会	1986/3/3	「円地文子論—自然な女」の周辺—	宮内淳子
1986	研究会	1986/4/25	フランス現代女性思想の流れ—ボーヴォワール・クリスティヴァ・イリガライ	棚沢直子
(S61)	研究会	1986/6/24	日本文化における『悪女』	Valerie・L・Durham
	研究会	1986/10/3	航空史における女性の役割—ドイツ女性スポーツ史の視点から	Gertrud Pfister
	研究会	1986/11/20	韓国の家族について	徐炳淑
	研究会	1986/12/8	バングラディシュの女性—女性政策の視点から—	Jowshan Ara Rahman (ほか)
	研究会	1987/1/14	中東世界の女性—イスラームの原理と実像	黒田美代子
	研究会	1987/3/3	マレーシアの女性	Goh Beng Lan
1987	研究会	1987/4/23	公民の妻/青年団における女子活動の設立	渡辺洋子(ほか)
(S62)	研究会	1987/5/15	Impact of Economics & Technological Change on Women	Tamara・Hareven
	研究会	1987/6/24	円地文子の描いた女性像	アイリーン・マイカルス・アダチ
	研究会	1987/7/14	家計構造の長期的変容	田窪純子
	研究会	1987/8/25	舞踊と語り……祖母の語りとその姿	江川まゆみ
	研究会	1987/10/26	ラテン・アメリカの女性像	三田千代子
	研究会	1987/11/25	和泉式部と仏教	小野美智子
	研究会	1987/12/16	タイ社会における女性の役割	小野沢・ニッタヤー
	研究会	1988/2/10	日本における転勤の問題とデュアル・キャリア・ファミリーについて	青木由紀
	研究会	1988/3/10	新しい家庭科をめざして	西谷洋子
	研究会	1988/3/10	家庭科における消費者教育	小関禮子
1988	研究会	1988/4/11	Income Generation of Women in Rural Bangladesh	Kohinoor Begum
(S63)	研究会	1988/5/26	South Asian Women: Challenges & Prospects	Urmila Phadnis
	研究会	1988/6/22	Some Implications of Women's Status in China	Beverly Y. B. Hong
	研究会	1988/7/8	性役割意識に関連する韓国人の価値観	金炳端
	研究会	1988/9/7	こどもの虐待と放置—小児科の全国調査から—	内藤和美
	研究会	1988/11/25	フェミニスト研究の軌跡—Stanley & Wise の『フェミニズム社会科学に向かって』が提起するもの—	矢野和江
	研究会	1989/2/21	アジアにおける女性と仕事	Noeleen Heyzer
	研究会	1989/3/7	日本のフェミニストの意識と alternative な生活スタイル	ゴー・ベン＝ラン
1989	研究会	1989/4/5	男女平等教育の実践に向けて	Peggy McIntosh
(H1)	研究会	1989/4/14	Education of Scientist who Happen to Be Women	Emily L. Wic
	研究会	1989/6/1	鎌倉期の乳父について—その存在形態と乳母との関連	秋山貴代子
	研究会	1989/6/12	Modernisation en Iran et Le Changement Socio-cultural de Role de la Femme	Nasrin F. Hakami
	研究会	1989/7/17	Problems of Homeless Children in India	Rajani Paranjipe
	合評会	1989/9/11	原ひろ子著『ヘアー・インディアンとその世界』について	田中真砂子
	研究会	1989/10/4	スペイン内戦下の女性たち	秋山充子
	研究会	1989/11/17	Women and / in Media	Ann Simonton
	シンポジウム	1989/12/13	お茶の水女子大学留学生懇談会	

	シンポジウム	1989/11/29 12/20,199 0/3/19	特定研究「女性のライフコースの多様化と女子大学の役割」	Peggy McIntosh
1990	シンポジウム	1990/4/23, 24	『母性』をめぐる日独シンポジウム	舘かおるほか
(H2)	研究会	1990/5/18	Systematic Planning for Women's in Development and Activities	Barbara Knudson
	研究会	1990/6/14	マレー農村社会における性役割—東南アジアの伝統とイスラム規範のはざまにて	花見慎子
	研究会	1990/6/26	Women's Mothering and Working Roles in Japan and the United States	Brenda Bankart
	研究会	1990/9/25	中央ユーラシア遊牧民の歴史にみる女性像	宮脇淳子
	研究会	1990/10/23	福沢諭吉の女性論	杉原名穂子
	研究会	1990/11/22	日本近代女性の自伝を読む	Ronald P. Loftus
	研究会	1990/12/5	精神的母性	Elisabeth Gössmann
	研究会	1991/3/13	女性の自然科学研究者の進路決定要因の研究について	ビヴァリー・ゲッツイ
1991	研究会	1991/5/29	大正時代の『令女会』の歌曲—女学生の歌唱と女学生向け創作歌曲の一考察	坂本麻実子
(H3)	研究会	1991/6/10	An Anthropological Study of Gender Science in Japan & U.S.	Sharon Traweck
	研究会	1991/6/18	To a Safer Place	Dane Raphael
	研究会	1991/10/4	Woman's Movement in Comparative Perspective	Ilse Lenz
	研究会	1991/10/9	Women of the Tlingit Society in Historical Perspective	Frederica de Laguna
	研究会	1991/10/31	Confusionism and Modern Chinese Women's Family Life	黄育馥
	研究会	1991/11/15	フェミニズムの方法としてのメモリーワーク	Frigga Haug ほか
	研究会	1991/11/19	クリスティヴァ『女の時間』を読む	棚沢直子
	研究会	1991/12/19	The Situation of the Swedish Women Today	Malin Romblom
	研究会	1992/1/30	自治体における女性学	栗園千恵子
	研究会	1992/2/12	中国の少数民族における女性	劉耀荃
	研究会	1992/2/20	アメリカ女性学の現段階: 女性学の理論家と県空者養成システム	三宅義子
	研究会	1992/3/13	『女性と労働』日独シンポジウム	
1992	研究会	1992/4/15	Women's Studies in Canada	Naomi Black
(H4)	研究会	1992/4/20	Sexuality and Reproduction in Women's Utopian Dystopian Literature	Blaine Martin
	研究会	1992/6/19	湯浅年子博士資料的研究の歩み	松田久子
	研究会	1992/6/22	ジェーン・アダムスの思想と行動	米澤正雄
	研究会	1992/7/20	女性と開発をめぐる諸問題	村松安子
	研究会	1992/10/26	沖縄における女性の就労と性役割分業観	国吉和子
	講座	1992/11/21 28,12/5	次世代育成力を考える	原ひろ子ほか
	研究会	1993/1/28	南インド・ナガラッターールにおける親族・婚姻及び女性	西村祐子
1993	研究会	1993/5/18	中国における職業分化に伴う女性の価値観と行為方式の変化について	沙蓮香
(H5)	研究会	1993/6/24	女性と表彰—"模範嫁"表彰の聞き取り調査をめぐって—	熊澤知子
	研究会	1993/7/16	ベルリンの老人ホームとケア付き集合住宅	大澤真理
	研究会	1993/9/22	女性の自己表現と文学—野上彌生子におけるフェミニズムと形式—	藤田和美
	研究会	1993/10/15	—政治学者のみたジェンダー研究—オリエンタリズムとの関連—	石田雄

	特定研究懇談会	1993/11/13	Women in Higher Education—A case of the University of California USA—	Dr.Maresi Nerad
	研究会	1993/11/14	変容する男性社会—労働、ジェンダーの日独比較	高島道枝ほか
	研究会	1993/12/3	Gender,Justice and Therapy: Can One Be a Feminist and Practise Family Therapy?	Jan McDowell
	シンポジウム	1993/12/14,15	女性とメディア	
	シンポジウム	1994/1/20	特定研究「ライフコースの多様化の時代における大学教育と女性」	
1994 (H6)	研究会/シンポ	1994/4/7	エコロジーとフェミニズムを考える	Maria Mies ほか
	研究会	1994/6/1	オーストラリア女性史研究—女性史からフェミニスト史へ	Vera Mackie
	研究会	1994/7/27	いけ花と日本女性: 知の発達・地から・ジェンダー	飛田尚弥
	研究会	1994/8/29	Feminist Studies and Qualitative Empirical Methods: the Case of Sex Tourism and Traffic in Women	Ilse Lenz
	研究会	1994/9/27	Internationalization and Gender Relations: Theoretical Approaches	Ilse Lenz
	研究会	1994/10/31	家族法改正をめぐる文献とその論点	海妻径子
	シンポジウム	1994/11/2	学内共同教育研究プロジェクト・大学における女性学及び女性学研究センターの役割について	
	研究会	1995/1/27	How to combine Parenthood and Work?—Policies on Gender in Sweden—	Rita Liljestrum
	研究会	1995/2/21	Current Trends in Women's Studies in India: Gender,Development and Empowerment/	Malavika Karlekar ほか
	研究会	1995/3/1	Women, Education, and Development in Bangladesh	Saleha Begum
1995 (H7)	研究会	1995/4/13	日本の女性国会議員—その形成と構造	大海篤子
	研究会	1995/5/12	姉さん女房の社会学	Ursula Richter
	研究会	1995/6/16	女性と政治	Elic Plutzer
	研究会	1995/7/3	遺伝子とジェンダー	Joan Hideko Fujimura
	研究会	1995/9/18	アメリカのフェミニスト法理論の現在	Frances Olsen
	研究会	1995/10/13	社会主義フェミニズムの観点から見る『雁』	玉枝 Prindle
	研究会	1995/11/24	エコロジーとフェミニズム	山本良一
	シンポジウム	1995/12/2	湯浅年子メモリアルカンファレンス—エレーヌ・ランジュヴェン・ジョリオをむかえて	Hélène Langevin-Joliot
	研究会	1995/12/19	The place of women in Egyptian Society	Samia Khedr Saleh
	研究会	1996/2/14	ネパールにおける Management と WID の視点	福土恵理香
	研究会/シンポ	1996/3/19	日本の学問研究とジェンダー	館かおる

【資料】⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第 3 条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第 4 条 研究所は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 研究員
- (4) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる者を加えることができる。

- (1) 副研究所長
- (2) 特別招聘教授
- (3) 特任職員
- (4) 客員研究員
- (5) 研究協力員

(研究所長)

第 5 条 研究所長は、男女共同参画を担当する副学長並びに基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員(以下「系会議構成員」という。)である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第 6 条 副研究所長は、系会議構成員のうちから、研究所長が指名する。

2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

3 副研究所長の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第 7 条 研究員は、第 3 条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は 2 年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第 8 条 客員研究員は、第 3 条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は 1 年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第 9 条 研究協力員は、第 3 条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は 1 年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第 10 条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 副研究所長

(3) 第 4 条第 1 項第 2 号に掲げる教員

(4) 第 4 条第 1 項第 3 号に掲げる研究員のうちからグローバル女性リーダー育成研究機構長(以下「研究機構長」という。)が指名する者

(5) その他研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第 2 条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 11 条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

附 則

この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

【資料】⑧『ジェンダー研究』編集方針・投稿規定

《編集方針》

1. 『ジェンダー研究』(以下、本誌)は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

《投稿規定》

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する、原則として修士号取得相当以上とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。なお、この規程に違反した場合、新たな投稿を受け付けないなど、しかるべき措置をとる。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は、
 - ・日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 20000 字以内
 - ・英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 8500 ワード以内
 - ・なお、1 図表 500 字相当、1 ページを要する場合は 1000 字相当とする
 - ・挿図の場合は、1 ページあたり 1000 字、刷り上がり 20 頁内に入ることを原則に、およそ 20 点までとして全体を構成する
 - ・挿図に用いる図版の掲載許可については、投稿者が自らの責任において然るべき手続きをとる。なお許可に要する費用は、投稿者負担とする。

* 定められた字数などの制限を超えた場合、形式において甚だしく不備がある場合には、受理できない。
- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
 - 6-1 表紙。論文タイトル(副題も含む)と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。
(タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。)
 - 6-2 日本語要旨。400 字以内。
 - 6-3 英語要旨。200 ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
 - 6-4 キーワード。日本語・英語ともに 5 語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。なお、執筆者を特定するようないかなる情報(謝辞、科研番号)も記載してはいけない。

- 7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

- 8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。
- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める＜『ジェンダー研究』執筆要項＞に従う。英語の投稿論文は *Style Sheet for Journal of Gender Studies* とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。ただし、本投稿規定・執筆要項や本誌の趣旨に合致しない原稿、また学術的論文としての水準を著しく達していないと判断された場合、審査の対象外とする場合もある。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、修正対応表をつけて、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則 2 回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

改訂

1. 2017 年 10 月 27 日制定
2. 2021 年 5 月 14 日改訂

『ジェンダー研究』執筆要綱

<http://www2.igs.ocha.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/yoko2019.pdf>

【資料】⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。

国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
ジェンダー研究所（IGS）
2022（令和 4）年度事業報告書

編集担当：申琪榮・和田容子

発行：お茶の水女子大学ジェンダー研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel: 03-5978-5846

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<http://www2.igs.ocha.ac.jp>

2023 年 7 月作成